

# 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第125号	氏名	Yozgatian Joseph Haroutioun
学位審査委員	主査 林 善彦 副査 朝比奈 泉 副査 池田 通		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 歯科矯正治療時の歯の移動に伴う慢性的な痛み・不快感に対する解決法は確立されていない。その理由のひとつとして、このような症状の発現に関して、従来基礎的な研究はなされなかった点がある。そこで、本研究では、ラットを用いて実験的歯牙移動時における情動的ストレスと痛みとの関係を行動生理学的手法によって、歯科矯正治療時のストレス応答の解析を行ったもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 動物の痛みとストレス応答に対する行動のパラメータを（1）顔を引っ掻く、（2）壁に後ろ足で立つ、（3）全体の運動活動量、（4）オープンフィールドの中心部への移動行動、（5）捕捉の際の挙動、により評価したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 結果・考察の評価 両群のストレスに関連した行動は、装置装着後8時間から統計的に有意差が認められ、2日後が最も顕著であった。痛みに関連する行動は実験群がコントロール群より24時間後において有意に強かった。すなわち、情動的なストレス応答は歯牙の痛みより時間的に先行して発現することが明らかとなった。この研究は、歯科矯正治療における痛みとストレスに関する基礎データを提供するものであり、矯正歯科臨床の痛みとストレスの症状を反映する実験モデルとして有用であると評価する。</p> <p>以上のように、本研究は矯正力による痛みとストレスを、初めて実験動物モデルを用いて、客観的に評価したものであり、今後の矯正臨床の問題解決のために大きく寄与するものと考えられる。審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値するものと判断した。</p>			